

## 1. 特別の教育課程の概要及び編成方針

本校は、国際コース開設にあたって、生徒を取り巻く世界に相応しい教育の提供を使命と考え、ケンブリッジ国際教育プログラムと文部科学省の学習指導要領を統合し、独自の教育課程を編成している。国際コースの目的は、急速に変化しグローバル化した世界で活躍するために必要なスキルを、生徒に身に付けさせることである。このことは、英語力だけでなく、21世紀を生き抜くために必要なスキルを学ぶことを意味する。ケンブリッジの教育アプローチには、ケンブリッジ学習者の属性(自信、責任感、内省的、革新的、関与)の発達をサポートするアクティブ・ラーニングと探究型学習が含まれている。

中学校においては、通常の科目に加えて、以下の3つを独自の21世紀科目として設置している。

### (1) 「グローバル・パースペクティブス」

複数の視点から地球規模の問題を分析することにより、批判的思考やその他のスキルを学ぶ

### (2) 「デジタル・リテラシー」

デジタルメディアに対して、責任を持って批判的に分析・対応する方法を学び、デジタルツールを使用する創造的な方法を開発する

### (3) 「コンピューティング」

実際の生活におけるITの影響を理解し、コーディングを学ぶ

この国際コースは幅広いバックグラウンドを持つ生徒を歓迎しており、入学時に高いレベルの英語力を求めず、教科・科目の学習においてCLILの方法論を使用し、全ての生徒がその内容を学びながら同時に英語を伸ばせるようにしている。クラスの人数は、生徒一人ひとりに必要なサポートを提供できるよう、20人に設定されている。

さらに、授業の約30% (国語、社会、道徳) は日本語で行う。このことにより、生徒は高い日本語運用能力を維持するとともに、日本の社会的・文化的価値観をしっかりと身に付けながら、グローバルな視野や考え方を育むことができる。それにより、進学先として日本国内の大学、日本国内の英語による課程を持つ大学、海外留学などの選択肢が広がり、国内でも海外でも国際的に働くことが視野に入ってくる。

## 2. 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成する必要性

本校の建学の精神は「自覚」である。また、「親切、努力」を生活信条としてきた。この「親切」の中には、常に国際理解に基づく教育を心がけ、背景や国籍などに関係なく、他者を尊重し、他者から学ぶ姿勢も含まれている。

本校は、1904年に女子校として創立され、音楽科を併設した最初の高校となり、男女共学化へと発展してきた。国際コースは、単に国際教育へのコミットメントだけでなく、「自覚」の精神の基、時代とともに革新し、変化したいという願望を満たすものでもある。

さらに、本校の所在地は、上野である。この地は、積極的な探究ベースのアプローチが可能な博物館、美術館、史跡、自然遺産があり、国際的な観光拠点である浅草からも徒歩圏内である。そのため、探索、研究、学習するのに理想的な環境を活用した特別なプログラムを編成している。